

## 感染症情報 2月8日～14日

府下小児科200医療機関（堺市19）から

①感染性胃腸炎	1138例（堺市 39例）
②溶連菌感染症	557例（堺市 31例）
③おたふくかぜ	129例（堺市 11例）
④みずぼうそう	89例（堺市 8例）
⑤伝染性紅斑	79例（堺市 7例）

府下小児科・内科307医療機関（堺市28）から

インフルエンザ 12668例（堺市1135例）

が報告された。

インフルエンザを除く感染症は前週から10%減少し、上位3位の順位は変わらず第1位が感染性胃腸炎、第2位が溶連菌感染症、第3位がおたふくかぜとなっている。インフルエンザは更に30%増加し、定点当たり41.3、堺市でも40.5と昨年の流行ピークを超えている。堺市の定点調査ではB型が6割を占めるが、小中学生ではB型が8割近くに対し、3歳未満と成人では逆にA型が6割を占める。2月15日現在、堺市では10校12学年で学年閉鎖、30校59クラスが学級閉鎖となっている。 予防に心がけよう！